

—目黒のサクラ再生実行計画—

九品仏川緑道

サクラ再生実行計画



令和3年3月

目黒区

目次

1	サクラ再生実行計画の考え方	1
(1)	背景	1
(2)	目的	1
(3)	対象	1
(4)	計画作成の流れ	2
(5)	現地調査会の開催	3
(6)	ニューズレター発行と意見募集	3
2	現状と課題	4
(1)	概況	4
(2)	樹木診断結果	4
(3)	土壌基盤調査結果	5
(4)	現状の問題点の整理	8
(5)	アンケート調査結果	9
3	桜並木の将来像	10
(1)	前提条件の整理	10
ア	安全な歩行空間の確保	10
イ	健全な高木育成	10
(2)	植栽計画	10
ア	植栽品種の選定	10
イ	植栽基盤の改善	11
ウ	植栽間隔の確保	12
(3)	将来像	14
4	維持管理計画	16
(1)	既存樹の基本的な維持管理	16
(2)	新植樹の基本的な維持管理	16
(3)	その他周辺植栽の維持管理	16
(4)	病害虫の被害	16
(5)	協働作業の考え方と役割分担	17

1 サクラ再生実行計画の考え方

(1) 背景

桜は日本を代表する花として広く親しまれており、目黒区内にも目黒川や駒場野公園等の桜の名所があり花見時には多くの人で賑わっている。

本計画の対象である九品仏川緑道は、多くの桜が植えられており、地域のシンボリックな桜並木を形成している。しかし、昭和 50 年代から昭和 60 年代に植栽されたものが多く、高齢化や生育環境の変化から樹勢が低下し、倒木や枝折れが懸念されている。

(2) 目的

緑道内にある桜について現状の課題を整理し、桜並木の将来像や保全策について住民と協働で検討を行い、中長期的な視点に立ってサクラ再生実行計画を作成する。

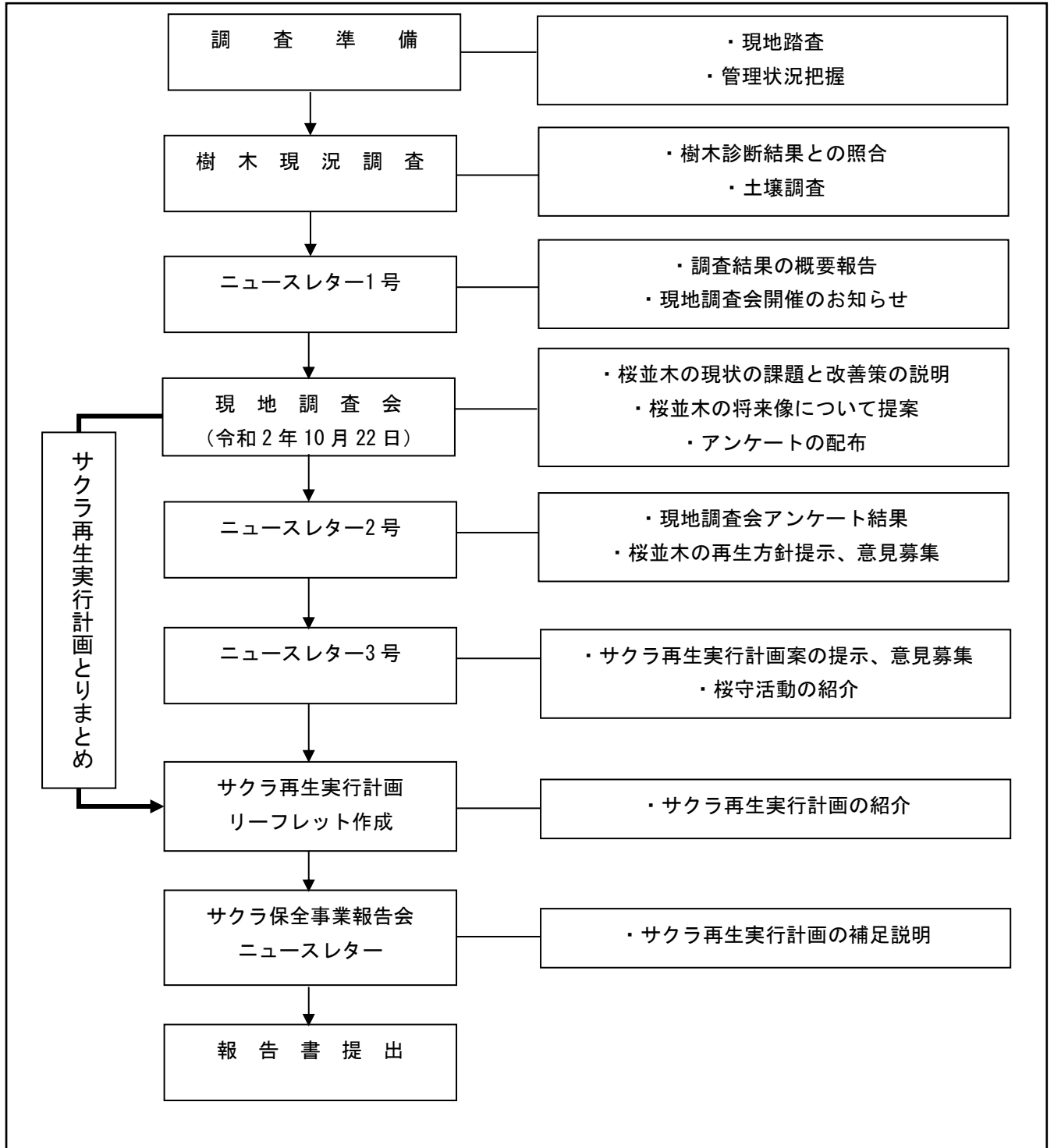
(3) 対象

九品仏川緑道 所在地：緑が丘 3-3 先～自由が丘 1-5 先
設置：昭和 49 年度
延長：約 921.40m 面積：3,727.50m²



(4) 計画作成の流れ

サクラ再生実行計画は以下の手順で作成した。(令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、会場によるワークショップは中止し、現地調査会とアンケート、ニュースレターへの意見募集により地域住民等の意見を収集した。)



(5) 現地調査会の開催

日時 令和2年10月22日(木) 13時30分～14時30分
場所 九品仏川緑道 緑が丘駅高架下～踏切手前交差点
参加者 7名
内容

- ・緑道を歩きながら現状の桜が抱えている問題と人工地盤上の植栽に特有の課題、考えられる改善策について説明を行い、桜についての質問や要望を伺った。
- ・参加者へアンケートを配布し、桜並木の将来像について意見募集を行った。



九品仏川緑道のサクラ再生実行計画 現地調査会のお知らせ
～桜並木の将来像を考えよう～
「新型コロナウイルス感染予防のため事前申込制」といたします。
日時 令和2年10月22日(木)13:30～14:30
(小雨決行、荒天の場合は10月29日(木)13:30～14:30)
集合場所 緑が丘駅前公共便所前(高架下) 13時15分受付開始
説明方法 緑道を歩きながら樹木医が桜の現状・課題と将来像の案を説明します

現地調査会
「樹木診断の結果報告と桜並木の将来像の検討」
募集人数: 20名まで(20名を超えた場合は抽選、応募者全員に当落通知を郵送します)
募集締切: 10月9日(金)必着
募集方法: FAX・メール・郵便で受け付けます。
「九品仏川緑道 サクラ再生実行計画推進委員会 事務局」と題の上、
お名前・郵便番号・住所・電話番号を記載して
・FAX: 03-3792-2112 ・メール: midorikobu04@city.meguro.tokyo.jp
・郵送: 〒153-8573 目黒区みどり土木政策推進設計室まで、お申し込みください。
*新型コロナウイルス感染予防のため、マスクを装着してご参加ください。
*当日、雨・風・足音のある場合は出席をお控えください。
お問い合わせ: 目黒区みどり土木政策推進 電話 03-5722-7145 委託者: 株式会社エコー

(6) ニュースレター発行と意見募集

令和2年9月から令和3年1月にかけて3回にわたり「目黒のサクラ再生実行計画 九品仏川緑道ニュースレター」を発行した。また現地調査会后にアンケートを配布し、意見募集を行い、住民意見を交えて桜の将来像について検討した。

【ニュースレター1号】 発行: 令和2年9月
概要: 九品仏川緑道 桜の現状と課題、樹木診断・土壌調査結果報告、現地調査会案内

【アンケート】 発行: 令和2年10月
概要: 品種や統一性への希望、植替え時の桜の配置、桜守活動の紹介

【ニュースレター2号】 発行: 令和2年11月
概要: 九品仏川緑道 現地調査会開催報告、アンケート結果の紹介、桜並木の再生方針提示

【ニュースレター3号】 発行: 令和3年1月
概要: 九品仏川緑道 サクラ再生実行計画案提示

2 現状と課題

(1) 概況

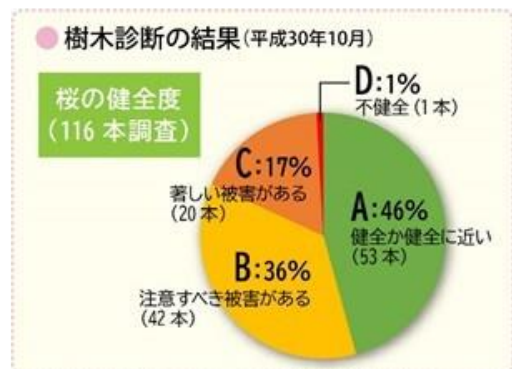
九品仏川緑道は、自由が丘駅方面から緑が丘駅を通り、呑川本流緑道をつなぐ地域のシンボリックな桜並木で、中には古木の風格を呈する樹もあり、長年住民に親しまれてきた経緯がある。桜の品種はソメイヨシノが主体で、一部オオシマザクラ、カンザン、アマノガワが植栽されている。しかし近年、桜の老齢化や環境の変化により、衰えの目立つ木が増え、樹木の生育状況を把握するため、平成30年10月に樹木診断、令和2年8月に土壌調査を実施した。

本緑道は、暗渠化した九品仏川に盛土をして緑化した、人工地盤構造である。植栽形式はブロックごとに「サクラの単独樹」「植え樹無し、舗装内植栽」とばらつきがある。大木化した桜が根上がりをおこし舗装や縁石が破損している箇所もある。樹木診断の実施は平成30年10月だが、その後の記録的な大型台風被害、冷夏や多雨高温などの異常気象を経て樹勢樹形は短期間に悪化が進んでいるようである。

桜は、ほぼすべて深植えて、巻き根が多い。腐朽障害（シイサルノコシカケ、コフキタケ、ベッコウタケ、ナラタケモドキ、マンネンタケ、カワウソタケ、カワラタケ）、枝先の増生病（サクラこぶ病）、幹や根元のがん腫も目立ち、大枝の分岐部亀裂や幹の欠損など安全上の問題が懸念される状態のものも見られる。

2) 樹木診断結果

平成30年度桜の診断は116本、うち健全度の判定がA（健全か健全に近い）53本、B（注意すべき被害がある）42本、C（著しい被害がある）20本、D（不健全・枯死）1本であった。



(3) 土壌基盤調査結果

九品仏川緑道は、昭和 49 年に「九品仏川」へコンクリートの蓋を被せ、その上に土盛りをし、緑道として整備された。

「九品仏川幹線平面縦断図」によればコンクリート蓋上の盛土厚は自由が丘通りから踏切までで 2.5～2.8m、一番土厚の薄い緑が丘駅前あたりでも 1.1～1.4m となっている。

図面上では、高木の根が十分に張れる土盛り構造と思われたが、樹勢の衰えが明らかで巻根の多い現状から植栽基盤の確認が必要となった。

樹木の生育不良が土壌に起因すると類推した 3 地点について各 2 ヶ所（幹から 1m 地点と根元）、更に比較的生育の良好な地点を対照区として 1 地点 1 か所選定し、長谷川式土壌貫入計を用いて土壌の硬さを調べ、検土杖（もしくは三角ホー）を用いて土を採取分析した。



ア 長谷川式土壌貫入計による土壌軟度の計測

長谷川式土壌貫入計は、おもりを 50 cm の高さから落下させ、そのエネルギーで先端の円錐コーンを土中に貫入した深さを読み取る。一打撃ごとの貫入深さから土壌の軟度を求めることができ、グラフ化することで、調査地点の土壌の深さと軟らかさの関係を分かり易く示すことができる。

長谷川式土壌貫入計
土壌調査風景



イ 検土杖および三角ホーによる土壌採取調査

検土杖は、T字型の金属の杖状で、先端が円筒形になっており、土壌に差し込むことで30cmずつの土壌が採取できる。

採取した土壌は、それぞれの深さの段階で土色や含まれる湿り気、固まり具合や根や腐植や砂利など混合物の有無をチェックし、植物の生育に向いているかどうかの確認をすることができる。

なお、土壌が固結して検土杖が入らない場合は、例外的に三角ホーで土壌採取を行う。



三角ホーによる土壌採取

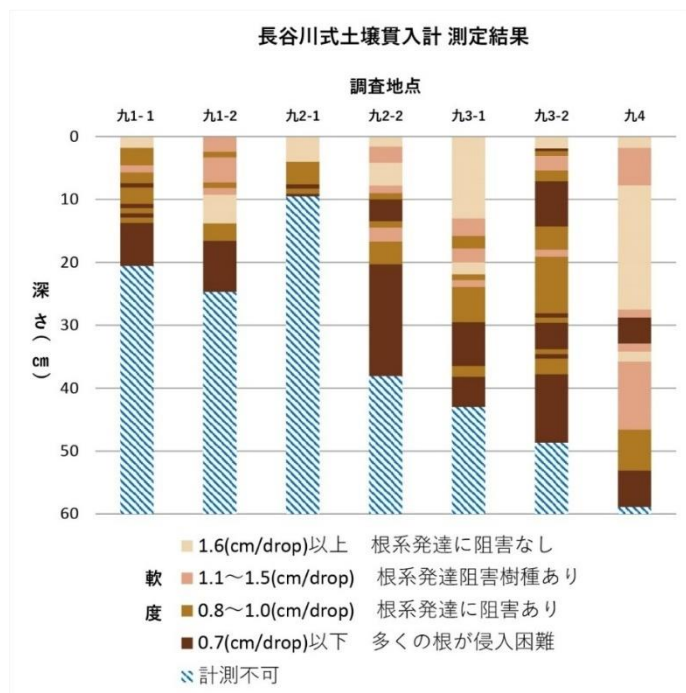


長谷川式検土杖 土壌採取調査風景

ウ 九品仏川緑道の土壌基盤の特徴まとめ

桜の衰退が甚だしい場所 (No. 1~No. 3) の土壌は砂質分が多く、触るとざらざらしており粘土分が少ないため、腐植があっても団粒化せず土の保水力と保肥力が乏しい土壌であった。また根元に近い位置に細根が集まっており、水分や栄養を取るための細かい根が周囲に広がって生育できない条件にあることが推察できた。

これは「根の発達が困難な硬さの土層」に地下10cmで突き当たる土壌貫入計による調査結果からも読み取れた。特



に緑が丘駅に近い調査地点 No. 1, 2 でこの傾向が大変高かった。また No. 3, 4 の表層が柔らかな土層であっても、いずれも表面の土壌は水分が抜けて乾燥しており、夏場は植物の根の健全な発達が阻害される状態にある。

高木の有効土層は深さ 60cm 以上、1m 程度が目安である。

有効土層に近い深さまで 2 種の調査ができたのは、桜が良好な樹勢を維持している対照地として採取した自由が丘駅寄りの No. 4 のみであった。

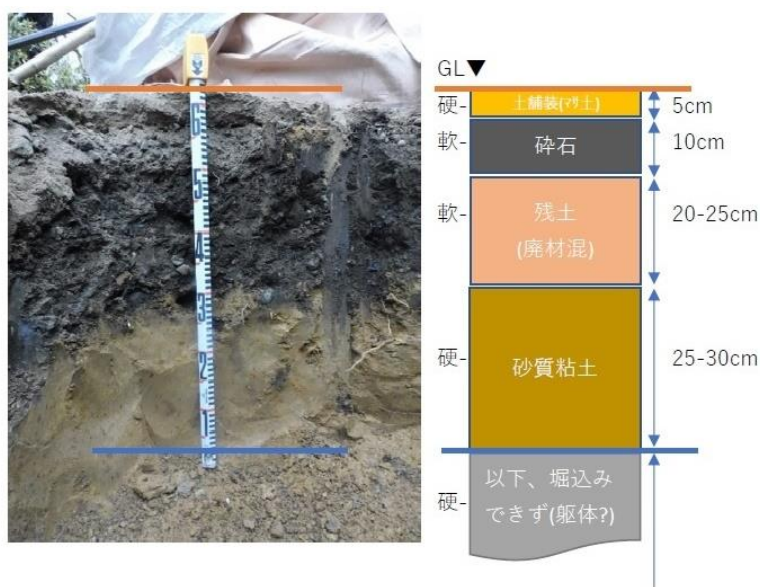
しかしそこでも 30cm 深に根の侵入が困難な土層が 5cm 厚で出現しており、将来にわたり桜の生育を良好に保つためには九品仏川緑道の植栽地は全線を通して基盤の改良が必要だと判断した。

なお、令和 3 年 2 月に桜枯死木 (No. 26) の抜根工事が行われ、土壌調査 NO. 1 に近い地点の植栽帯土壌断面を観察する機会があり、上記の土壌調査結果を検証することができた。

●土壌断面情報

- ・表層は土系舗装(真砂土)5cm、基盤碎石が 10cm
- ・桜の根は植栽帯の幅 1m 延長 2m の範囲、深さ 10~20cm の廃材が混じった残土層にのみ見られる。
- ・太根は道路側縁石に沿って走っている。
- ・中~大径根は重なり合い癒合しているものも見られた。
- ・深さ 25cm 以降の砂質粘土(黄色い層)には根がほぼない。

●九品仏川緑道 No. 26 抜根工事時 緑道土壌断面情報



(4) 現状の問題点の整理

現在、九品仏川緑道の桜は様々な問題を抱えている。

健全な桜並木を再生維持するためには植栽の土壌基盤、人の利用と桜の生育空間の切り分け、空間に対する適切な品種の選定といった対策を講じる必要がある。

ア 桜の問題

・樹形の不良(景観不良)

支障枝や腐朽した大枝の切り戻しで自然樹形が崩れている。また強風時に根が地上部を支えきれずに傾いていたり、日照不足で樹冠の生育がいびつになっている。

・樹冠の枯れ枝

夏場は道路の交差部や屋根の上を吹き抜ける熱風で枝葉の蒸散が進むが、根から十分な水が上がっていかないため枝枯れをおこしている。植栽の植付間隔が狭く、土壌の栄養分や水分、日照の奪い合いになっている。また、樹冠が接触するためこぶ病などの病害が枝から枝へ伝染しやすく、これも枯れ枝が増える原因になっている。

・病虫害の罹患

桜コブ病、てんぐ巣病などソメイヨシノは病気にかかりやすい性質がある。コスカシバなど穿孔虫の被害、コフキタケやベッコウタケなどの腐朽菌被害を患っている木が多い。

・樹皮の欠損、大枝や幹の空洞

雪や強風による枝折れや剪定時の傷口から枯れ込みが進み、樹皮が剥がれてむき出しになっている。さらに腐朽菌による材の腐朽で大枝や幹に空洞ができ、折損のリスクを抱えているものもある。

イ 土壌の問題

・樹勢不良

人工地盤で植栽の有効土層が浅いため根が発育不良になっている。踏圧による締固めで土の中の空気と水分が不足し、根が枯死しやすい。

・巻根、舗装の押出し

植え柵の大きさが十分ではなく、桜の根が自分自身に巻き付いて養水分の通導障害を起こしている。空気や水分をもとめて表層の舗装材に近い位置に根が入り込むため、縁石が浮き上がり舗装に亀裂が起きている。



樹形・景観不良



樹冠の枯枝



根株の腐朽菌

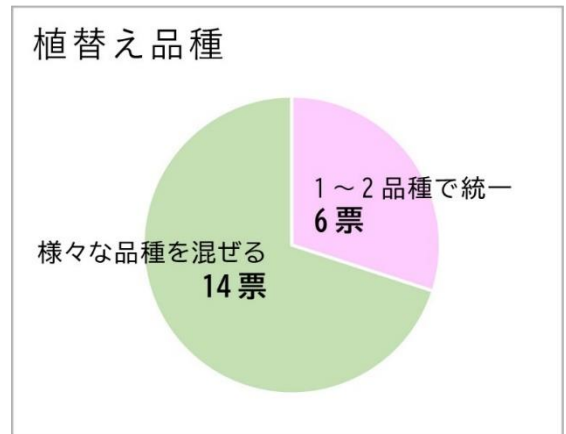


根による舗装縁石破損

(5) アンケート調査結果

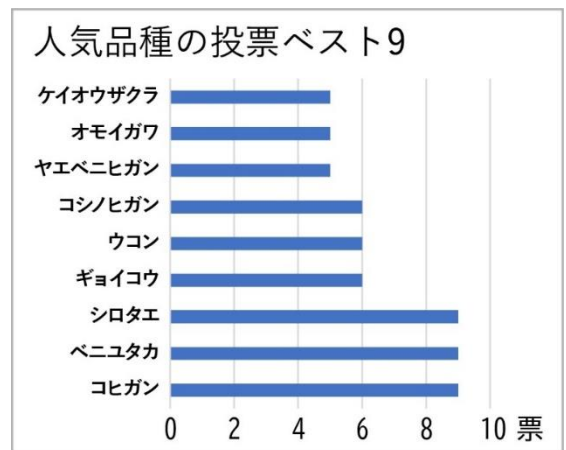
ア「倒木等で植替える場合の品種」

1～2 品種で統一したほうが良いという意見よりも、様々な品種を混ぜたほうが良いという意見が多かった。



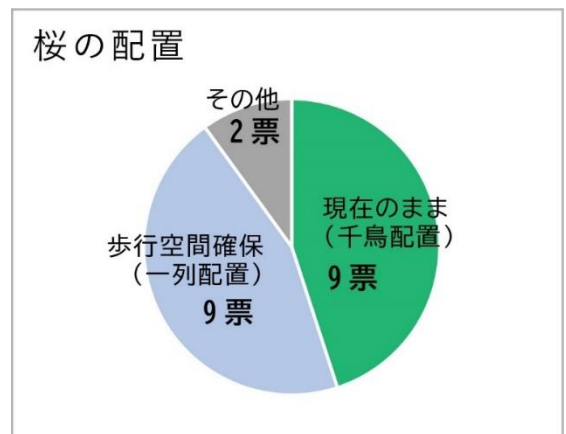
イ「人気品種のベスト9」

従来ソメイヨシノの代替としていたコヒガン、コシノヒガン以外にも、色の濃淡や変わり種の品種が多数挙げられた。



ウ「桜の配置」

踏切手前(緑が丘 2-15)の景観を例に問いかけたが、現在のままの千鳥配置維持と、歩行空間を確保する一列配置への変更希望は同票だった。



3 桜並木の将来像

(1) 前提条件の整理

ア 安全な歩行空間の確保

住宅地内の桜並木において将来を見通して育成を考えると、樹冠の形状は往々にして都市のインフラ設備の配置に規制されることを考慮する必要がある。

また高齢化が進む社会において、歩行者は杖や車椅子などの補助器具を使用していることを前提とし、植物と親しめる＝ゆっくりと移動できる余裕のある緑道空間を確保する必要がある。

イ 健全な高木育成

樹木は目に見える地上部の枝葉だけでなく、通常意識することが少ない地下の根の生育具合もその健全性や将来性を大きく左右する。

樹木の育成を維持するのに十分な根の領域（8～10m）を確保しておくこと、さらに工事掘削などで根を傷つけると支持機能が欠損し以後強風時の傾斜や根返り倒伏のリスク、樹勢低下による病害罹患や景観不良のリスクをはらむことを考慮する必要がある。

(2) 植栽計画

九品仏川緑道は川の上にコンクリートの蓋をかけて土を盛った人工地盤の為、桜が根を張ることのできる範囲が限られている。現状の問題点を踏まえ植栽基盤の整備、植栽の配置、そして桜の品種選択について検討した。

ア 植栽品種の選定

大型のソメイヨシノは植栽基盤が浅い緑道空間に適さないため、新規の植栽時はソメイヨシノより小型の品種を選定することとした。ただし、桜の品種は開花を長期間楽しめるように、1～2品種での統一ではなく、以下の複数の品種を選定した。



コヒガン

(一重咲・小輪・淡紅)
小型の品種。ソメイヨシノに似ていて、密生して花がつく。



コシノヒガン

(一重咲・中輪・淡紅)
花の雰囲気はソメイヨシノに似ていて、やや小型。



ヤエベニヒガン

(八重咲・中輪・淡紅)
コヒガンの八重咲品種。枝は横に広がらない樹形。



ベニユタカ

(八重咲・大輪・濃紅)
花の紅色が豊かで大輪の八重咲である。



コケシミズ

(一重咲・中輪・淡紅)
白い花の先端は細かく切れ込み紅色に染まる。



オモイガワ

(半八重咲・中輪・淡紅)
栃木県小山市で作られ、市内を流れる川に因んで命名された。



シロタエ

(八重咲・大輪・白)
蕾は淡紅色だが、最盛期は白色で大型の八重咲の花が咲く。



ギョイコウ

(八重咲・中輪・黄緑)
黄緑色に緑の筋が入る特徴的な花が咲く。

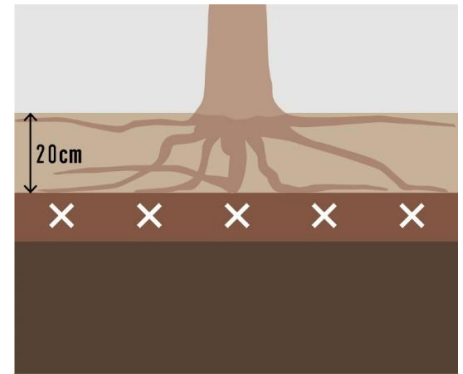
品種名	3月			4月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
コヒガン		✳				
コシノヒガン		✳				
ヤエベニヒガン		✳				
ベニユタカ				✳		
コケシミズ				✳		
オモイガワ				✳		
シロタエ					✳	
ギョイコウ						✳

桜の品種写真:(公財)日本花の会

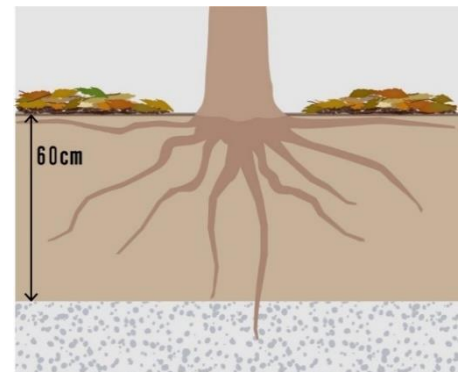
イ 植栽基盤の改善

(ア) 植替え

- ・土中に残る病気の伝搬を防ぎ、より良い植栽環境を形成するため、すぐには植替えを行わないことも重要である。もしくは、土を入れ替える。
- ・深さ 1m まで重機で十分に耕耘する。アスファルト塊やコンクリートガラ、酸化還元土など再生不良の土壌は撤去する。
- ・最下層 20cm に砕石を入れて排水層を確保する。
- ・十分な保肥性、保水性と透水性をもつ良質客土で入れ替える。もしくは土壌消毒を行った既存土壌に 10% 程度の土壌改良材（バーク堆肥、黒土、燻炭等）と緩効性肥料を元肥として補う。



現状の植栽基盤(イメージ)

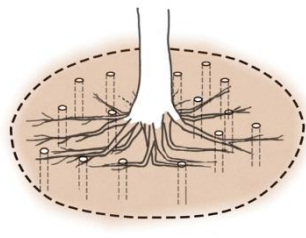


土壌改良後の植栽基盤(イメージ)

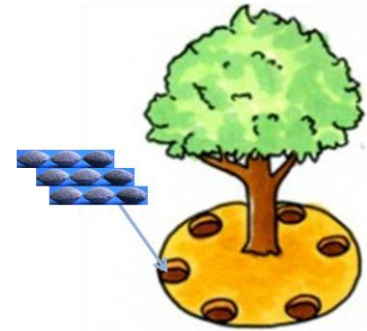
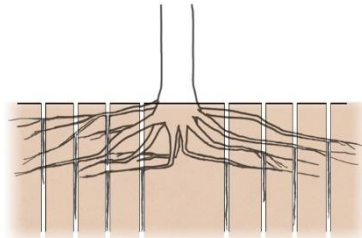
(イ) 既存の桜

- ・幹の周囲 50cm 内にある地被類、低木類の根は撤去し、根元に盛土されている場合はルートカラー(幹から根張りに変化するライン)が見えるまで土を除去する。
- ・現状の植え桝(または根回り)は地表面が固く締まっているので、空気や雨が十分に入るよう土を柔らかくほぐす。

- 根と根の間に移植ごてやエアスコップ、下穴あけ器を使って縦孔を数か所作る。完熟バーク堆肥や緩効性肥料を入れ、根を地表ではなく地中深く伸ばすよう誘導する。



土をほぐし空気と水を地中深くに届ける縦孔づくり(イメージ)



根回りの施肥(イメージ)

- 作業は根が冬眠から覚めて動き出す2~3月頃に行う。または、枝葉の伸びる梅雨時に行う。

ウ 植栽間隔の確保

(ア) 桜の健全育成と緑道の利用の両立

- 風の通り道となる交差点付近や日照が不足する高架下など桜の健全生育が望めない環境に注意して植替えを行う。
- 車椅子の通行を考慮し、植栽帯を配置する。
- 街路灯や電線類へ配慮する。

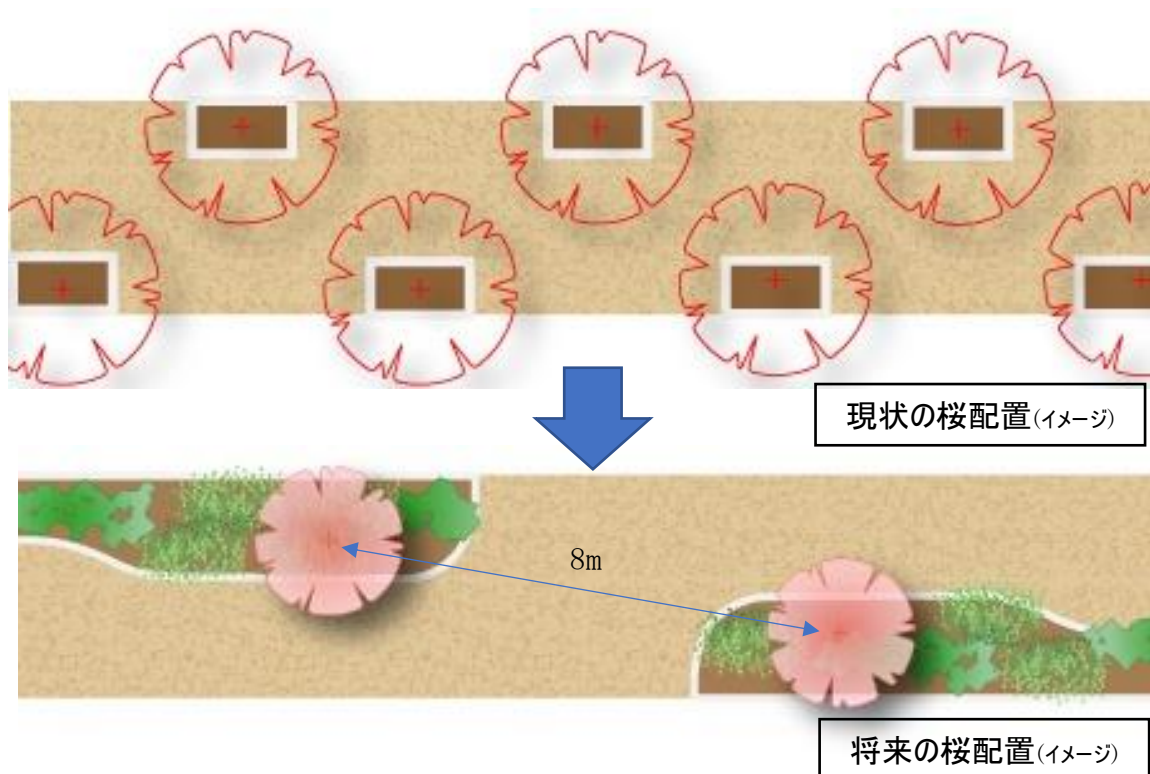
(イ) 既存の植栽帯

- 現存の桜から8~10mの距離をとった場所を新規の桜の植付予定箇所とする。
- 保水性と保肥性、透水性の改善のため完熟バーク堆肥や燻炭など土壌改良材を現状土に5~10%程度施し、植穴の底に土を被せた状態で緩効性肥料をおき、深植えにならないようルートカラー(樹の幹から根に繋がるライン)が見える状態で桜を植え付ける。
- 周囲の低木を復植する際は、桜の根鉢に盛土がかぶらないよう十分に注意する。

(ウ) 新規の植栽帯

- 独立桝や舗装内に直接桜を植え付けているブロックでは、2本ずつまとまった植栽帯を整備する。緑道の左右交互に植栽帯を配置し、通路と植栽の根元保護を両立させる。
- 桜同士の植付は成長後の樹冠の重なり合いと根系の競合を避けるため8m程度の間隔をとる。

- 桜の健全生育を優先するため植栽帯内には桜と根系が競合するその他の高中木は可能な限り配置しない。
- 根回りの踏込み防止には歩車道境界ブロックを配置した上で、高木間と植栽帯の縁に常緑地被類と低木を密植にならないよう植え付ける。
- 病害虫の呼び込み阻止と樹木の安全点検のため、根張りがよく見えるよう配植する。



(3) 将来像

現在植栽されている桜を適切に維持管理して保全していき、倒木などの危険が生じた桜については順次植替えを進めていく。下図のように、緑道を3つのエリアに分け、それぞれのエリアの主題が桜の品種の移り変わりで違和感なく連続する印象になるよう将来像を検討した。



①賑わいのエリア 自由通りから踏切（緑が丘2-16先）まで

- ・緑道の歩きやすさと桜の健全生育を両立させる。
- ・現在の自由が丘駅前の桜並木の雰囲気を持し、将来にわたって風景を引き継ぐため、ソメイヨシノより小型で同系統の花を一斉に咲かせる品種に植替えを行う

②落ち着いたエリア 踏切から緑が丘2-5先まで

- ・緑道の歩きやすさと桜の健全生育を両立させる。
- ・枝の重なりや電線への接触を回避するため、ソメイヨシノより小型の桜の品種を選択する。
- ・静かな住宅地で色々な桜の開花を順々に楽しめるよう多彩な品種を配置する。

③出会いのエリア 緑が丘1-21先から呑川本流緑道まで

- ・緑道の歩きやすさと桜の健全生育を両立させる
- ・枝の重なりや電線、建物への接触を回避するため、ソメイヨシノより小型の桜の品種を選択する。
- ・ソメイヨシノの開花期を終えた後も、桜の花を長く楽しむ、花とひととの出会いを促すため遅咲きの品種を配置する。



①賑わいのエリア（将来像）
コヒガン、コシノヒガン、ヤエベニヒガン



②落ち着いたエリア（将来像）
コヒガン、コシノヒガン、ヤエベニヒガン、
ベニユタカ、シロタエ、コケシミズ、
オモイガワ、ギョイコウ



③出会いのエリア（将来像）
ベニユタカ、シロタエ、コケシミズ、
オモイガワ、ギョイコウ

4 維持管理計画

(1) 既存樹の基本的な維持管理

- ・ 樹勢を衰退させない剪定、腐朽予防対策
- ・ 枯枝、支障枝の早期切り戻し
- ・ エアレーションと土壌改良（根を傷つけないよう注意）
- ・ 冬季、夏季の乾燥期の灌水
- ・ 発生している病害（腐朽、樹皮欠損、樹幹の揺れ・傾斜）の定期確認
- ・ 新たな虫害や病害の兆候確認

(2) 新植樹の基本的な維持管理

- ・ 強風時の枝折れや支障枝の迅速な切り戻しと腐朽予防対策
- ・ 成長後の大きさをコントロールするための整枝剪定
- ・ 定期的な点検、早期の異常発見と対処
- ・ 冬季夏季の異常乾燥時にこまめな人為灌水
- ・ 根張りが確保されるまでの支柱の更新と不要時の即時撤去
- ・ 春から秋、根回り 50cm 保護域の除草（穿孔害虫予防、異常の早期発見）

(3) その他周辺植栽の維持管理

緑道全体の美観向上に貢献する低木地被類の植栽にも、適切な維持管理を行うことで、桜の健康増進を支えることができる。

①灌水、施肥、除草、剪定

低木地被は、乾燥期に水切れによる葉の萎れが出るタイミングが早い。葉色の異常や枝の伸長量の変化、花芽の付き具合で肥料の過不足がわかりやすい。桜と水分や養分を競合しないよう適切な剪定や灌水、施肥、除草が必要である。

②増えすぎた株の掘り取りと裸地部への移植

根回りへの踏込みを予防するため植栽帯は草花で「地を覆う」ように管理をする。また地被類は株が密植し始めると衰退するため、2～3年に一度は株分け更新を行い、踏込みで裸地化した場所へ移植することで地表面の土壌をほぐし、地中への雨水の浸透効果も回復することができる。

(4) 病虫害等の被害

①穿孔虫による幹の被害

例) クビアカツヤカミキリ(甲虫)、コスカシバ(蛾)

飛翔昆虫である親(成虫)が樹皮に傷をつけて産卵し、孵化したイモムシ状の幼虫が樹の内部の生きた材を食べて育つ。幼虫の食害以外にも産卵時の樹皮の傷口や幼虫が材内部で掘る坑道、内部で蛹から成虫になって出ていくときの脱出孔を通じて木材腐朽菌が桜の内部組織に広がり、落枝や幹折れ、枯死を引き起こす危険がある。

②枝の被害

例) サクラの増生病（こぶ病）、てんぐ巢病

枝の傷口にバクテリアや病原菌が入り、枝の途中に点々と握りこぶし状の塊が発生したり、細い枝が大量に出る病気。この症状が出た枝の先では桜の花は咲かず、葉は枯れる。放置すると樹冠全体に症状が広がって樹勢が衰退する。

③土壌中の菌類による幹や根株の被害

例) ナラタケ、ナラタケモドキ、ベッコウタケ、コフキタケ（コフキサルノコシカケ）

土壌中の病原菌が樹木の根や地際の幹にできた傷口から侵入し樹皮の下に広がり樹木の養分を奪い、内部の材を腐朽する。梅雨時や秋の長雨に、子実体であるキノコが発生して初めてわかることが多い。罹患した樹木は樹勢が衰退し、枯死、根返り倒木や幹折れ、大枝落下などのリスクを負う。

（５）協働作業の考え方と役割分担

①日常的な点検、観察作業

見守り対象として日常的に緑道の桜を観察し、「この木の周りだけ妙に葉が萎れている」「幹から木くずが出ている」などのささやかな気づきを記録する。これにより、病害虫トラブルの早期発見につながり、施肥や灌水、害虫駆除などを適切な時期や必要な場所から行うことができる。

②土壌改良、灌水

草花は植付け後、数カ月内でその成長を楽しむことができるが、桜は樹木のため、働きかけの反応に時間がかかる。しかし、植物の維持管理作業（清掃や灌水、施肥）の一環を生活の楽しみのサイクルに取り入れるとより良い維持管理に繋がり、九品仏川緑道の景観を向上させることができる。

③九品仏川緑道桜のPR活動

桜並木のPR活動として、桜の観察会や維持管理作業の講習会の開催、桜の生育記録の情報の発信などを行うことにより、世代を超えた桜守同志を増やすことにつながる。